

機関誌『社会福祉学』執筆要領

1. 原稿提出に際しては、学会ホームページに掲載の「投稿チェックリスト」を併せて提出すること。提出がない場合、受け付けないものとする。
2. 投稿原稿は、本文・図表・注・引用文献を含めて20,000字以内とする。図表は1点につき600字換算とし、図表込みで20,000字以内を厳守すること。ただし、1頁全体を使用する図表については1,600字換算とする。
3. 投稿する原稿の執筆にあたっては、
 - (1) 原則として縦置きA4判に横書きで、1頁1,600字（40字×40行）で作成したデータを提出する。
 - (2) 原稿に表紙と和文および英文抄録をつけ、本文にはタイトル（英文タイトル併記）のみを記載し、所属、氏名、会員番号を記載しないこと。
 - (3) 表紙には、①タイトル、②原稿の種類、③所属、氏名（連名の場合は全員、ローマ字併記）、④会員番号（連名の場合は全員）、⑤連絡先を記入する。なお掲載時には読者からの問合せを可能にするために、原則として連絡先（住所または電子メールアドレス）を脚注に入れるが、希望しない場合はその旨を明記すること。また、原稿の種類は、①論文、②調査報告、③実践報告、④資料解題から選択する。
 - (4) 2枚目には、和文抄録（400字以内）とキーワード（5語以内）を記載する（無記名）。
 - (5) 3枚目には、英文抄録（200語以内）と英文キーワード（5語以内）を記載する（無記名）。
 - (6) 原稿は正本と副本を提出する。副本については著者を特定することのできる氏名、所属、謝辞等の事項をマスキングする。
 - (7) 掲載決定通知後の最終原稿は次のとおり作成する。
 - ①本文・注・引用文献は、Wordまたはテキスト形式で保存したCD-R等電子媒体、および縦置きA4判用紙に横書きで、1頁に40字×40行で印字した原稿を1部提出する。
 - ②図表は、本文とは別に1葉ごとにA4判にコピーして提出する。図表の挿入箇所は、本文に明記する。なお、特別の作図などが必要な場合には、自己負担を求めることがある。
4. 文章の形式は、常用漢字を用いた新仮名づかいを原則とする。注や引用の記述形式は、別添の「日本社会福祉学会機関誌『社会福祉学』執筆要領〔引用法〕」によるものとする。
5. 投稿原稿に利用したデータや事例等について、研究倫理上必要な手続きを経ていることを本文または注に明記すること。また、記述においてプライバシー侵害がなされないように細心の注意をなすこと。
6. 投稿論文の査読は、著者名等を匿名にて行っているため、文献等の表記の際には、本人の著であっても「筆者」「拙著」等とせず、筆署名による表記とする。また、査読に対する回答の必要がある場合は編集委員会あてにこれを行う。
7. 査読による修正の要請については、論文の修正箇所を明示し、対応の概要について編集委員会あてに回答すること。

(別添) 日本社会福祉学会・機関誌『社会福祉学』執筆要領〔引用法〕(2002.8.9)

1. 注および文献の表示について

従来は、

秋田は、Xについて「——¹⁾」と述べている²⁾。

注)

1) 秋田博司：「——論文名——」『社会福祉学』第21-2号，2001年，25頁。

2) ただし秋田は、Yについてはこれほど明確に述べているわけではない。

という方式を採用していたが、実際には本文注と文献注が分離されているものと、一体となっているものが混在している。これを明確に分離する。

新方式として、

秋田(2001:25)は、Xについて「——」と述べている ¹⁾ 。 あるいは、 秋田は、Xについて「——」と述べている(秋田2001:25) ¹⁾ 。

とする。つまり、著者名・発行年・引用頁を本文に挿入する。ただし、引用文献が論文などで出所がわかりやすい場合はとくに引用頁を記載しなくてもよいが、単行本などの場合は出所がわかりやすいように、引用頁を明示する。そして、文末に、注の欄と文献の欄を別に設ける(なお、右肩添え字は注の指示であって引用文献の指示ではない)。

(注)

1) ただし秋田は、Yについてはこれほど明確に述べているわけではない。

(文献)

秋田博司(2001)「——論文名——」『社会福祉学』21(2)，23-42。

2. 句読点の使用について

現方式は、

秋田は、Xについて「——」と述べている(秋田2001:25)¹⁾。

コンマ

丸

であるが、今後は

秋田は、Xについて「——」と述べている(秋田2001:25)¹⁾。

コンマ

ピリオド

に変更する。

3. 引用

基本的に、論文中の引用方式を統一することが重要である。

(1) 短い引用

文献から短い文章を引用するときは、本文中に「」でくくる形で引用を行う。その際、引用文中に「」が使用されている場合はその箇所を『』に変える。

(2) 長い引用(以下、□は空欄を表す)

本文・・・・・・・・

1行空ける

□□□・・・・・・・・

□□・・・・・・・・

□□・・・・・・・・(秋田2001:25)

1 行空ける

□本文・・・・・・・・
・・・・・・・・

(3) 翻訳のある外国書からの引用

原典から直接に引用する場合は、Thane (1996 : 23-4) あるいは (Thane 1996 : 23-4) のように記載するが、翻訳書から引用する場合は、Thane (=2000 : 34-5) あるいは (Thane =2000 : 34-5) のように記載する。

4. 参照の表示の仕方

X についての先行研究を概観すると次のような特徴がみられる (中山 1997 ; 中川 1998 ; 秋田 2001 ; 北沢 2002)。

5. 文献の記載方式 (文末の文献欄における記載の方式 : □は空欄を表す)

(1) 邦文の文献

① 単著の場合

著者名 (出版年) 『書名 (タイトル——サブタイトル)』 出版社名.

(例)

小松源助 (2002) 『ソーシャルワーク実践理論の基礎的研究——21世紀への継承を願って』 川島書店.

② 共著の場合

文献上の著者順 (出版年) 『書名 (タイトル——サブタイトル)』 出版社名.

(例)

岡村重夫・高田真治・船曳宏保 (1979) 『社会福祉体系3□社会福祉の方法』 勁草書房.

③ 編書の場合

編者名 (出版年) 『書名 (タイトル——サブタイトル)』 出版社名.

(例)

尾崎□新編 (1999) 『「ゆらぐ」ことのできる力——ゆらぎと社会福祉実践』 誠信書房.

三浦文夫・高橋紘士・田端光美・ほか編 (2002) 『講座戦後社会福祉の総括と21世紀への展望Ⅲ□政策と□制度』 ドメス出版.

④ 編書論文の場合

論文著者名 (出版年) 「論文名」 編者名 『書名』 出版社名, 論文初頁-終頁.

(例)

永岡正己 (2002) 「第1章□戦後社会福祉思想の形成と展開」 阿部志郎・右田紀久恵・宮田和明・ほか編 □『講座戦後社会福祉の総括と展望Ⅱ□思想と理論』 ドメス出版, 19-72.

⑤ 雑誌論文の場合

論文著者名 (出版年) 「論文名」 『掲載雑誌 (もしくは紀要) 名』 巻(号), 論文初頁-終頁.

(例)

原田和宏・齋藤圭介・有岡道博・ほか (2002) 「福祉関連職における Maslach Burnout Inventory の因子□構造の比較」 『社会福祉学』 42(2), 43-53.

押小路忠昭 (2001) 「専門職研究の発展とそのパラダイム転換について」 『社会学専攻紀要』 (明治学院大□学) 25, 1-26.

[注]

i 3名を超える著者については3名まで連記し, それ以上は「ほか (欧文の場合は et al.)」で表記する.

- ii 『雑誌名』『紀要名』は出版元に関する表記は原則必要ないが、その名だけでは出版元がわかりにくい場合は表記する。
- iii 雑誌・紀要の巻・号については、たとえば第42巻第2号を42(2)というように表記する。巻のみ、もしくは号のみの場合は、たとえば第25号を25というように表記する。
- iv 掲載頁が年巻通算頁で記されているものは、その頁で表記する。その場合は、号数表示を省略してよい。

⑥翻訳書の場合

原典の書誌情報。(=翻訳の出版年、訳者名『訳書のタイトル』出版社名。)

(例)

Thane, Patricia (1996) The Foundations of The Welfare State, 2nd Ed., Longman. (=2000, 深澤和子・
□深澤敦監訳『イギリス福祉国家の社会史——経済・社会・政治・文化的背景』ミネルヴァ書房。)

[注]

- i 原典の書名はイタリック体で表記するか、もしくは下線を引く。
- ii ファースト・オーサーのみ ファミリーネーム、ファーストネーム ミドルネーム (イニシャルのみ)。で表記し、後はファミリーネーム、ファースト/ミドルネーム (イニシャルのみ)。で表記する。複数の表示はandを使用する。
- iii 掲載雑誌名・書名はイタリック体、もしくは下線を引く。

⑦初出誌の掲載誌と再掲編著書を共に示したい場合

初出誌に関する書誌情報 (再録：再録編著書に関する書誌情報)

(例)

吉田民人 (1974) 「社会システム論における情報——資源処理パラダイムの構想」『現代社会学』1(1), 7-
□27. (再録：1990, 『情報と自己組織性の理論』東京大学出版会, 153-72)。

[注]

掲載頁表示において、153-172という場合には、153-72という表示でよい。

⑧調査報告書の場合

研究代表者名 (刊行年)『タイトル』○○年度・・・報告書, 研究機関名。

(例)

米本秀仁 (2002) 『社会福祉専門職における現場実習とこれからのあり方に関する調査研究報告書』平成
□13年度「長寿・子育て・障害者基金」福祉等基礎調査 (社会福祉・医療事業団委託研究), 北星学園大
□学米本研究室。

⑨政府刊行物等の場合

編集機関名 (出版年)『タイトル』発行元。

(例)

厚生労働省 (2001) 『厚生労働白書 (平成13年版)』ぎょうせい。
国立社会保障・人口問題研究所編 (2000) 『人口の動向 日本と世界——人口統計資料集2001/2002』厚
□生統計協会。

⑩修士論文・博士論文の場合

著者名 (論文提出年)「論文タイトル」○○大学大学院○○学研究科○○年度修士論文 (あるいは博士学
□位論文)。

①学会報告原稿の場合

著者名（発行年）「原稿タイトル」『学会報告要旨集名』（開催大学名），頁.

(例)

橋本美枝子（1998）「スーパービジョンにおける境界の問題——「感情」の取り扱いをめぐる」『日本
□社会福祉学会第46回大会研究報告概要集』（明治学院大学），158.

②電子メディア情報の場合

著者名（公表年または最新の更新年）「当該情報のタイトル」（URL，アクセス年月日）.

(例)

厚生労働省（2002）「サービス供給における契約について」（[http://www.mhlw.go.jp/general/seido/syakai/
□sienhi/jimu05.html](http://www.mhlw.go.jp/general/seido/syakai/sienhi/jimu05.html), 2002.5.12）.

(2) 欧文の文献

①単著の場合

著者のファミリーネーム，ファーストネーム ミドルネーム（出版年）タイトル：サブタイトル，出版社
□名.

[注]

i タイトル：サブタイトルはイタリック体もしくは下線を引く.

ii ファーストネーム ミドルネームはイニシャルだけでもよい. その場合は，イニシャル.（ピリオド）
となる（以下同じ）.

(例)

Buhler-Wilkerson, Karen (2001) No Place Like Home : A History of Nursing Home and Home Care in
□The United States, The Johns Hopkins University Press.

Buhler-Wilkerson, K. (2001) No Place Like Home : A History of Nursing Home and Home Care in The
□United States, The Johns Hopkins University Press.

②共著の場合

ファーストオーサーのファミリーネーム，ファーストネーム ミドルネーム and 共著者のファミリー
□ネーム，ファーストネーム ミドルネーム.（出版年）書名，出版社名.

(例)

Kirk, Stuart and Reid, W. J. (2002) Science and Social Work: A Critical Appraisal, Columbia
□University Press.

③編書の場合

編者名の後に，編者が1人の場合はed. 複数の場合はeds.を入れる.

(例)

Cutcliffe, John R., Butterworth, T. and Procter, B. eds. (2001) Fundamental Themes in Clinical
□Supervision, Routledge.

④書籍掲載論文の場合

(例)

Stalker, Susan (2001) Inclusive Daytime Opportunities for People with Learning Disabilities, Chris
□Clark ed. Adult Day Services and Social Inclusion, Jessica Kingsley Publishers, 46-66.

⑤雑誌論文の場合

(例)

Schoenberg, Nancy E., Coward, R. T. and Albrecht, S. L. (2001) Attitudes of Older Adults About
Community-Based Services: Emergent Themes from In-Depth Interviews, Journal of Gerontological
Social Work, 35(4), 3-20.

6. 文末における注リストの記載方式：片カッコNoを列挙する.

(注)

1) 本文

.

2)

3)

:

7. 文末における文献リストの記載方式

①文献リストには本文中に引用もしくは言及した文献のみを記載する.

②1文献ごとに改行する.

③著者（ファーストオーサーのファミリーネーム）のABC順に並べる. 日本人のラ行はRの位置につける.

④同一著者の複数の文献がある場合は, 出版年の古い順に並べる.

⑤同一著者の複数の文献が同一出版年である場合は, (出版年 a) (出版年 b) (出版年 c) という具合に並べる.

⑥同一著者が共著のファーストオーサーになっている場合は, 単著が終わった後に並べていく.

(文献)

.

.

.

.

:

結局, 論文の印刷体裁は以下のとおりになる.

タイトル

著者名

要旨:

Key Words:

本文

(注) ただし, 記載されている場合

(文献)

(英文抄録)

本規定は以下の文献を参考に行っている.

日本社会学会編集委員会 (1999) 『社会学評論スタイルガイド』

日本心理学会 (1991) 『心理学研究 執筆・投稿の手びき (1991年改訂版)』